



大型公共事業中心から、市民の命・暮らし・生業守る予算へ



3月7日予算特別委員会・建設局審査で王子公園再整備計画について、市民の声に真摯に受け止めるように求めました

コロナ感染拡大から2年以上となりました。神戸市議会では2022年度予算が提案され審議されましたが、神戸市長提案の予算案は市民の要望からは程遠い中身になっています。今、市民が求めているのは、「大学誘致ありき」で進められている王子公園再整備計画や、三宮再整備に象徴される不要不急の大型開発強行ではなく、長引くコロナ感染拡大の影響から、市民の命、暮らしを最優先に守り、市民の苦難によりそうことです。

今井まさこ議員は3月28日予算議会で、日本共産党神戸市会議員団を代表して、市長提案の「2022年度一般会計予算」の組み替えを求めました。

内容は以下の通りです。

- ① コロナ対策を重視——保健所体制の強化、保健師の増員、コロナで減収に苦しむ地域医療機関への支援金の創設。高齢者施設でのクラスターを重く受け止めクラスター発生を抑える環境整備の充実を。
- ② 35人学級の早期実現——コロナ禍で感染が不安で登校できない児童生徒は4500人をこえました。こどもたちが安心して学校・保育所・学童保育を。
- ③ 神戸経済の主役、中小企業を支援——事業者からは「2年頑張ってきたが限界」「社会保障負担の軽減を」など、悲痛な声が上がっています。これまで神戸経済を支えてきた事業者を応援し、地域の経済基盤の強化を。これらの施策は、予算のわずか3%の組み替えで実現できます。



減らすもの

- ▼ 都心・三宮再開発 178億円
- ▼ 大阪湾岸道路西伸 42億円
- ▼ 医療産業都市構想 28億円
- ▼ 王子動物園再整備 1.4億円
- ▼ スマスイ・海岸再整備 3.2億円
- ▼ 須磨多間線 1.1億円 など

不要不急の事業を休止し、コロナ対策や教育・子育て支援にまわす

増やすもの

- ▲ 中小業者への支援金創設 28億円
- ▲ 保健所強化と地域医療機関への支援 15億円
- ▲ 35人学級の前倒し(小学校と中1) 12.8億円
- ▲ 学生の就学継続のための特別給付金 10億円
- ▲ 高校卒業まで医療費無料 8億円
- ▲ 保育所・児童館・小中学校・特養ホーム増設 60億円
- ▲ 住宅・店舗リフォーム助成など 8億円
- ▲ 親子方式での中学校給食先行実施 など

給食室がなくなり配膳室に 垂水小学校の建て替え

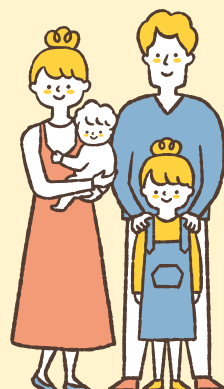
垂水小学校の現地建て替え工事が始まっています。地域住民への説明会では「避難所が3階になる。1階にしてほしい」「垂水駅周辺のような施設の建て替えが、一度に集中する。車の出入りや騒音問題が心配」など意見が出されましたが、修正することなく工事が始まりました。

住民説明会では学校給食についての説明はありませんでした。今回、教育委員会から「今後、新たに建設する学校には給食室はつくらず、配膳室とする」という説明がなされ、垂水小学校も含まれていることが分かりました。これは議会にも全く説明がありませんでした。日本共産党神戸市会議員団は「垂水小学校はこれまで自校調理方式だった、当然給食室の建設をすべき」と求めました。



垂水区に産科と小児科をもつ 総合病院の建設へ

垂水区は15歳以下の子どもの数が多い行政区ですが、これまで産科と小児科を持つ病院がなく、必要な時には区外へ行くしかありませんでした。産科・小児救急を含む救急機能を持った総合病院の建設は区民の皆さんの声が届いた結果です。場所は旧養護学校・体育館の跡地です。解体工事は4月以降で、開設予定は2025年2月1日となっています。





救急体制の強化を求める

今年に入ってコロナ感染は第6波となりました。神戸市は「コロナ・オミクロン株の感染拡大に対応できない」と、陽性者、濃厚接触者へのPCR検査をせずに、陽性者の多くが自宅待機となっています。今井まさこ議員は予算議会・消防局質疑で「感染数が急増し、救急車の出動要請がふえ、この中で明らかになったのは、救急搬送を依頼しても、陽性者の3人に1人が不搬送になっている。また、高齢者施設では、施設内の医師が救急搬送を要請しても、搬送されない例が相次いでいる」など実例を挙げ、「第4波の経験が活かされて

いない」「高齢者施設での留め置きはやめるべき」と救急搬送体制の強化を求めました。

また、搬送困難件数(4つの病院から受け入れを断られる。又は30分以上現場に止まる)が増えている問題では、「コロナ受け入れ病院を増やす」「これ以上の病床削減をやめるよう」患者と保健所、病院の間にたって苦勞している現在の声を、市当局にあげるよう求めました。

ジェンダー平等



神戸市立の小中高のトイレに生理用品の常備設置へ

女性の6人に1人が何らかの理由で生理用品を買うことができない……。生理の貧困が社会問題になっています。

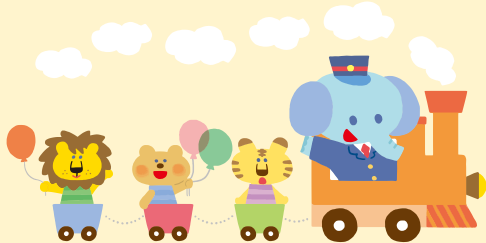
神戸市教育委員会は生理用品を保健室に置き、必要な子どもは保健室に来るように指導していました。保健室では取りにいけない子どもがおり「生理用品はトイレに置くよう」求めてきました。しかし、市は「生理用品が保健室にあるほうが子どもと話ができる」「不必要な子どもが持っていく」と一貫して、トイレに置くこと

を拒否していましたが、この度、教育委員会は市立小中高すべてに「トイレ1か所以上、生理用品を置く」ことを決定し、順次学校に発送することに。女性団体や日本共産党神戸市会議員団の主張が行政を動かしました。

コロナ禍で女性の貧困が広がっています。多くの女性が非正規であり、男女の賃金格差も是正されていません。今後もジェンダー平等へ、様々な問題に取り組んでいきます。

市民の宝

「王子動物園」を守れ



基準の半分の広さしかありません



3月7日に行われた予算特別委員会・建設局審査で、今井まさこ議員は「王子動物園のリニューアルについての基本的姿勢について」質疑しました。

今回の市民意見では「面積を広げるべき」「動物の福祉に配慮したものにすべき」「老朽化した施設のリニューアルは必要」などの意見が多く寄せられました。

市民の声にこたえ、「大学の誘致」「立体駐車場の建設」「遊園地の廃止」などやめ、市民が求める動物園にするように求めました。

- ① 大型の動物舎が基準の半分以下—キリンのJAZA基準は1200㎡のところ、王子動物園では599㎡、ゾウは1000㎡のところ499㎡—しかありません。実態を示し、リニューアルの際は必ず、JAZA基準以上にすること。(※JAZA基準とは日本動物園水族園協会がきめている基準)
- ② 動物資料館の充実を。資料館には動物の骨格がたくさん残されており、学問的にも貴重です。現在、象の骨格が展示されています。動物園の人気者だった「太郎」です。「太郎」は、元気づいで鉄柵を壊して動物園内を歩き回ったり、ゾウの諏訪子に押されて、溝に落ちたりと、たくさんのエピソードを残しています。動物園の歴史を作ってきた動物の骨格を展示するなど、子どもたちに命の大切さがわかる資料館に充実すること。
- ③ 絶滅危惧種の「種の保存」は動物園の任務であり、配偶子(卵子・精子)の冷凍保存に取り組みことや、全国の動物園との連携を図り、積極的に取り組むようにすること。



動物園資料館に設置されている象(太郎)の骨格

コロナ禍から 市民生活を守る

コロナ禍で苦しむ 中小業者へ支援を

神戸市は、2年以上にわたるコロナ禍で苦しむ中小業者への支援について、「国には充実した支援策がある」という答弁に終始しています。しかし、国・県による既存支援策を利用してもなお、多くの中小業者が経営困難に直面しているのが実態です。林議員は「コロナで売上げが減った。家族の介護費用などで、手元の10万円で家族4人生活しなければならない」などの事業者の苦悩の声を紹介。中小業者等が、これ以上廃業や倒産に追い込まれないように、市独自のさらなる支援策を講じるべきと追及しました。

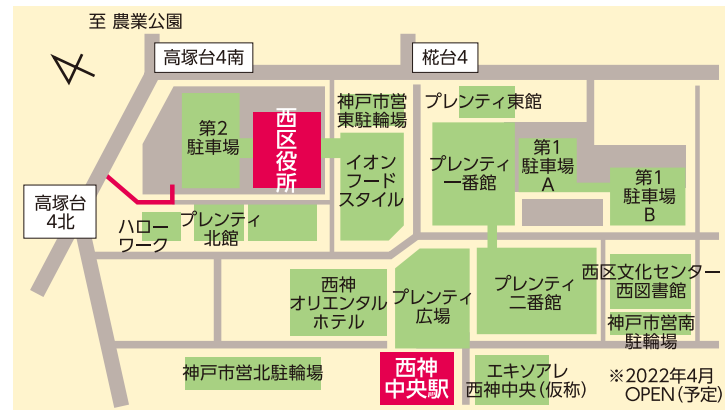
保健所体制の本格的拡充を

日本共産党神戸市会議員団は、コロナ禍における保健所体制の強化について再三必要性を主張してきました。ところが久元市長は、保健所業

務のデジタル化などによって効率化をはかるとし、抜本的な体制強化や保健師の増員に背を向けてきました。林議員は、市民の命と健康を守るため、保健師の増員などによる抜本的な保健所体制の強化が必要だと質しました。



プレんティの駐車場を利用すれば、無料券もらえます。



各フロアはわかりやすい

2月14日から、西区役所が西神中央駅東に移転、開設して、広報「なでしこ通信」2月号に新しい様子や各階の業務案内が載っていますが、使い勝手の問題点が市民からよせられています。玉津庁舎では、無料の駐車場が建物前にあったため、来庁者が新庁舎でも無料駐車場がないかと探していると連絡がありました。広報には「プレんティ第1、第2駐車場を利用の場合、1時間の無料券を発行します。」と記載がありますが、小さい文字でわかりにくい。また、バスや地下鉄で西神中央駅前に来ても、案内表示が分かりにくいという声も寄せられています。皆さん初めての場所です。来庁者にわかりやすい案内が必要だと、林まさひと議員は申し入れました。

西区役所が移転しました



神戸市雨水浸水対策基本方針に基づき、西河原、今津地区の雨水対策、とりわけ西河原でのポンプ場の設置事業の進捗状況について、自治会のみなさんと市建設局下水道部の担当者から説明を受けました。

神戸市雨水浸水対策基本方針のなかで、引き続き重点に取り組んでいくエリアが「魚崎南」「西河原」の2か所とされ、地元の皆さんの心配を解消するため継続していること、西河原のポンプ場設置に関して設計、工事の業者とそれぞれ契約したとの報告があり、先の見通しが見えてきましたが、百年前と比べて降水量が3割増えているデータも示され、一刻も早い事業の進展が求められています。

西河原・今津地区の 浸水対策事業すすむ

枝の刈払い

春日台の公園の枝が道路にまで伸びて、車の通行で困っているという声を西建設事務所に届け、きれいになりました(1月)。



市会控室 〒650-0001 中央区加納町 6-5-1 **078-322-5847**

西区事務所 神戸市西区玉津町高津橋 297-12 TEL **919-6650** FAX **918-3772**



学校給食のあり方

…小学校自校調理から撤退？



「現在、老朽化等に伴いまして、校舎の建て替え等を予定をしております垂水小学校・春日野小学校、それから港島学園につきましては、給食室の整備を行わないこととし、適切な給食提供方法の検討を行っております」と教育長。

改修には多額の費用が掛かる、場所を取る、などの理由をつけ、給食室より、配膳室にすれば場所も半分から3分に1程度ででき、空いたスペースにはカウンセリングルームを作るなどと、小学校からも自校調理の給食をなくしていこうという姿勢が感じられます。

林まさひと議員は、2月18日の教育・子ども委員会で問題点を指摘しました。

●竹森教育委員会事務局学校支援部長

港島学園につきましては、校舎の一体化整備に伴いまして、この令和6年度中に中学校給食、そちらのほうの全員喫食制への移行に合わせまして、給食提供方法を変更したいと考えてございます。全学年の給食を民間デリバリー方式により配送できないかということを考えてございます。

●林まさひと議員

そもそも——中学校給食、デリバリーにするから小学校をなくしてしまうという、せっかくの自校調理をやめてしまうというのは非常に問題であり、私たちはそれは認められません。

港島学園の北棟(1)1階に配膳室!

北棟(1)	
4階	普通教室(4)・学習室(1)
3階	特別教室(2)・学習室(1)
2階	普通教室(6)・学習室(1)・多目的室(1)・教具室
1階	配膳室・ランチルーム・通級指導教室・カウンセリング室・倉庫・管理諸室

※()内は教室数

大学誘致ありきの

王子公園整備計画はやめよ!

「王子公園再整備基本方針(素案)」には、市民から1456通(5632件)、市外の方からも892通の意見が寄せられました。「わたしから神戸市への提案」にも1026通の意見が寄せられました。これだけの意見が寄せられているのに、久元市長は「大学誘致の必要性について、丁寧に説明をしたい」などと、考え方を一切変えようとしていません。

日本共産党市会議員団は予算議会の中で、大学誘致ありきで市民が大切にしてきた遊園地やプール、テニスコート、サブグラウンドを廃止する計画の撤回を求めました。

王子動物園前にて



市営住宅削減計画はストップを!

林まさひと議員は3月3日の予算審議で建築住宅局の質疑に立ちました。

この間、市営住宅は減らされてきました。いまコロナ禍で住宅困窮者が増えています。住宅を確保するのが神戸市の仕事だとして対応をききました。当局はコロナで住まいを失った方に向けた一時使用住宅は、37戸を許可して現在22戸が入居中と答弁。

林まさひと議員は、少なすぎるとし、特に東灘、灘、中央の3行政区には、申し込める住宅がそもそも用意されていないとただしました。「令和2年度の神戸市国保の資料では、社会保険から国保に移った方で非自発的喪失者(自

分の意思で辞めた方以外)の6月から翌年3月までの軽減適用被保険者数(国保料の減免者数)は、東灘で730人。全部の方が住まいがないわけではありませんがコロナ対応の市営住宅は(東灘区に)1戸もありません。」と指摘し、市営住宅の削減計画を中断、延期して住まいを確保すべきだと追いました。

また、**住み替えの要件の緩和**について、「市営住宅『入居のしおり』には、10項目にわたり、迷惑行為はやめまじょうとあり、迷惑行為がひどく、注意に従わない場合は住宅を退去していただくこともあります。」と書いてあるが迷惑行為に神戸市はどう対応しているのか?とただしました。

林まさひと議員は、迷惑行為、ストーカー行為は被害者の命にもかかわる。加害者への対応も必要だが、被害者の苦痛を救うためには別の市営住宅への住み替えを認めるようにするべきだと求め、局長も「必要な取組だとは思っておりますので、我々のほうでも検討させていただきたい。」と前向きに答弁しました。



予算特別委員会で質疑する林まさひと議員

公共交通機関に痴漢対策を申し入れました

ジェンダー平等の推進の課題のひとつとして日本共産党神戸市会議員団は、電車やバスでの痴漢被害をなくそうと1月の大学共通一次試験を前に各公共交通機関に対策を申し入れました。林まさひと議員は、山陽電車と神戸電鉄の申し入れに参加し、駅構内だけでなく電車内でも痴漢は犯罪であることを明確にした案内放送やテロップを流すことを申し入れました。新年度が始まる中でも、しっかりと各事業者が意識して取り組んでいるか、注視していきます。



神戸電鉄に痴漢対策の申し入れる(林、朝倉両市議)

市民の住まいを確保するのは市の仕事

高校生通学定期補助～みなさんの声で実現!!～

ひとり親家庭への全額補助(要件有)に続き、年間14万4000円を超えた金額の半額を補助します。日本共産党神戸市会議員団は、さらに制度の充実を求め頑張ります。



1月17日 神鉄申し入れ

受験生狙う痴漢はNO!

日本共産党神戸市会議員団は、「痴漢は犯罪です…」のアナウンスを流してほしいと、各交通事業者へ申し入れを行いました。朝倉えつ子議員は、犯罪を起こさせない対策を強化していただきたいと神鉄の申し入れで訴えました。

学校トイレに生理用品を配置

「生理用品を学校トイレ等へ置いてほしい」と、女性団体や地域の方々から要望があり、朝倉えつ子議員はじめ日本共産党神戸市会議員団は、こども家庭局や教育委員会と粘り強く交渉してきました。

教育委員会は「保健室等での配布とあわせて、少なくとも1か所のトイレに常設してください」と各学校宛に通達しました。学校トイレの設置は第一歩です。

引き続き公共施設などで無償で気軽に入手できるように求めていきます。何より要望の根底にある格差と貧困の是正を目指します。



3月1日、神戸市会は「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する決議」を全会一致で採択しました。国連憲章に反する戦後国際社会の平和秩序を破壊する行為に対し、平和の世論の広がりや決定的に重要です。

ロシアはウクライナから即時撤退を



ロシアのウクライナ侵略にたいして市会全会一致で抗議決議

地域のご要望、暮らしのお困りごとは、お気軽にお声かけください。

●日本共産党神戸市議団 神戸市議会内 ☎078-322-5847 ●党北区事務所 ☎078-591-4755
地域の活動などをfacebookやTwitterで報告しています。

朝倉えつ子

神戸市会議員

発行: 日本共産党神戸市会議員団 〒650-0001 神戸市中央区加納町6-5-1
党市議団 HP: <http://www.jcp-kobe.com/>



3月14日総括質疑する朝倉議員

久元市長は、三宮再整備(178億円)をはじめ巨大開発を、「民間事業者が思う存分自由に展開でき」れば、「人がたくさん集まってくる」と推進しています。しかし、神戸の人口は10年連続減り続け、成長は止まっています。

日本共産党神戸市会議員団は、公的責任を大きく後退させる政策の転換、コロナ禍で市民の命と暮らし、雇用と営業を守ることこそ、自治体の役割と、予算議会で強く求めました。

王子公園・動物園再整備 大学誘致撤回を



市民の憩い・交流の場である「プールやテニスコート、サブグラウンドをなくさないで」と、多くの市民が異論の声をあげています。ところが久元市長は「大学を誘致」は「経済波及効果も大きい」「市全体の発展にも寄与」などと、あくまで大学を誘致する計画です。

関西学院大学では「王子キャンパス構想特別検討委員会」ができていくことがわかり、朝倉えつ子議員は「市民にこれから丁寧に説明すると言いつつ、すでに大学と話し合いを進めているのか」と質しました。市は「公募によって決定する。一部報道で個人的に関心があるという話もあった」とのべ、市長の独断で大学誘致をすすめる計画を変えようとしません。朝倉議員は「大学誘致は白紙撤回するべきだ」と強く求めました。

プール・給食室は廃止でなく「命を守る」教育を

神戸市は、老朽化する市立学校の校舎建て替えにあわせて、プールや給食室を廃止しようとしています。具体的に計画されているのは港島学園中学部のプールと、港島学園小学部、垂水小学校、春日野小学校の給食室です。「水泳は『命を守る』義務教育」と、専門家はプール廃止を不安視する声もあります。

朝倉議員は「なぜ廃止させるのか」「子どもにお

金を使いたくない、本当に冷たい姿勢だ。市長がお金出すと決めれば出来るのではないかと、市長の見解を質しました。

久元市長は「毎年、教育委員会からは予算を要求していただき、必要な予算を計上させていただいているつもり」などと、教育委員会に責任を転嫁しています。必要な施設改修はきちんと行うべきと求めました。

市役所職場からワーキングプアを無くし、正規雇用をふやせ

朝倉議員は、神戸市の会計年度任用職員など、「公務労働の現場でワーキングプアをうみだすようなことはやめるべきだ」と、非正規職員の正規化を強く求めました。

済生会兵庫県病院は現在地で存続充実を求めます!

「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」は、市民への影響などとともに議論しないまま、「済生会兵庫県病院と三田市民病院の統合再編が望ましい」とする報告書を3月末に提出します。日本共産党神戸市会議員団は、済生会病院は現在の場所で存続充実を求めます。

学校・保育園の積極的検査復活を

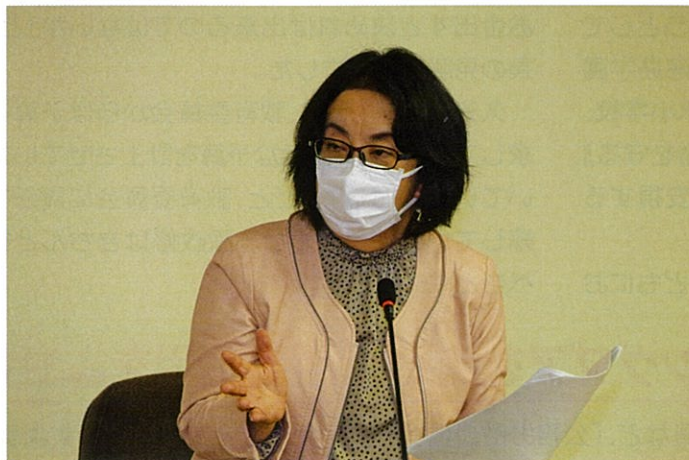
第6波の感染拡大の中で、神戸市は学校・保育園の積極的PCR検査を縮小しました。検査をやめたとたん「感染が不安で登校できない児童生徒数」は急増(4,585名2月7日時点)しました。

子どもたちの命を守るために、頻回検査、感染対策、保護者や保育士への支援強化を求めました。市は「現場の状況はつかんで対策している」などと述べましたが、朝倉議員は「それならば具体的に支援を強めるべきだ」と質しました。

少人数学級を思い切って前倒し実施を

国を挙げて少人数学級をすすめようとする流れの中で、兵庫県は中1で35人に踏み出します。神戸市は国任せのまま、本腰を入れようとしません。

コロナ禍で2年以上我慢させられている子どもたちに、豊かな学びを保障することは当然ですし、学校の先生方の多忙化を解消するためにも、思い切って教職員を増やして、少人数学級を前倒しですすめることを求めました。



教育委員会審査で質疑する朝倉議員

神鉄シーパスワン、北神(新設)実現 販売引換券手数料に500円!?

神鉄シーパスワンは、令和4年度から新たに神鉄+市営地下鉄(谷上駅~県庁前・谷上駅~みなと元町駅)が利用できる「シーパスワン北神」が発売(1枚6,400円)されます。

一方、コスト削減で販売引換券郵送をやめて、マイナンバーカード提示の販売にしています。カードがない場合は、引換券取り寄せに500円もの市民負担を押し付けようとしています。

市民負担を増やすのではなく、敬老パスで購入できるようにするなど、便利に改善し、シーパスワンは本格実施を求めます。



<券面>

予算のつかい方をあらためれば、願い実現できる 日本共産党神戸市議団が予算組み替えを提案

減らすもの		増やすもの	
▼都心・三宮再開発	178億円	▲中小業者への支援金創設	28億円
▼大阪湾岸道路西伸	42億円	▲保健所強化と地域医療機関への支援	15億円
▼医療産業都市構想	28億円	▲35人学級の前倒し(小学校と中1)	12.8億円
▼王子動物園再整備	1.4億円	▲学生への就学継続のための特別給付金	10億円
▼スマスイ・海岸再整備	3.2億円	▲高校卒業まで医療費無料	8億円
▼須磨多聞線	1.1億円	▲保育所・児童館・小中学校・特養ホーム増設	60億円
など		▲住宅・店舗リフォーム助成など	8億円
		▲親子方式での中学校給食先行実施	など

税金等の使い道をあらためる

(企業減税の中止)	(住民増税の中止)
●特定企業減税 12.7億円	●住民税超過課税(世帯400円) 3億円
(特定企業支援の中止)	(社会保障負担軽減)
●企業誘致優遇施策 6.6億円	●国民健康保険料引き下げ(世帯5000円) 10.5億円
●大企業水素事業支援 1.3億円	●介護保険料引き下げ(一人3000円) 21.75億円

ジェンダー平等や気候危機 打開に積極的に取り組む

- 原発や石炭火力に頼らないエネルギー政策
- 男女共同参画推進課を復活しジェンダー平等推進
- 郊外住宅近接型の公的施設誘致支援事業

住民意見封じ込め狙う 議員定数削減

神戸市議会制度改革検討会が1月に設置され、自民党・公明党から9議席減の提案が出されています。多様な市民意見の反映とともに、大きな権限を持った市長が王子公園の再整備など住民意見とことなる施策を出した場合にも、住民の目線でチェックし監視機能を果たしていくことが議会には求められています。

日本共産党は、議員定数削減は、市民とのパイプを細くし、大政党だけを有利にして多様な民意を切り捨てるものだと指摘。議会としてのチェック機能の強化や、費用弁償の廃止・議員歳費の引き下げを求めました。

チェック機能の強化や、費用弁償の廃止・議員歳費の引き下げを

感染拡大から命と生業を守る緊急対策を

2月17日に予算議会が開会し、日本共産党神戸市議団を代表して森本真議員が補正予算の議案質疑に立ちました。森本議員は、この度上程された補正予算議案はコロナで苦しむ市民にとって有効な予算となっていないとして、対策の抜本強化を久元市長に求めました。

森本議員が議案質疑



質疑項目

1. 新型コロナウイルス感染症対策について
 - (1)感染拡大防止のためのPCR検査の拡大について
 - (2)コロナ陽性者支援など、保健所業務体制の強化について
 - (3)市内事業者の実態に見合った支援の強化について

市長 「共産党の言うように検査すれば感染者が増える」と答弁
「検査キットの調達まで自治体が必要はない」

科学的根拠のない無責任な市長に市民の命は守れない！

今すぐ積極的PCR検査の拡大を

積極的PCR検査を拡大し陽性者をいかに早く発見し、感染の伝播を断ち切り、隔離と治療をすることは、緊急の課題です。しかし、神戸市は1月27日に「積極的PCR検査の対象から学校園・保育所などを除く」と逆行する方針に転換しました。これは「学校な

どに積極的PCR検査を実施する」と掲げた市長選挙公約に反するものです。森本議員は「子どもたちも検査・治療を受けるべき。子どもたちの命を犠牲にしてはならない」と質し、積極的PCR検査の拡大を求めました。

たからだ。PCR検査の拡大を市長公約で掲げながら、検査数を伸ばさなかったことは大きな問題だ。それが第6波への備えだったのではないか。（検査を限定して）発見を遅らせたから感染が拡大したのではないのか。

森本議員：検査をすることで無症状でも感染者が発見できる。久元市長は「PCR検査や抗体キットは神戸市ではどうにもなりません」とツイッターで発言していたが、神戸市内の企業も作っているのだから、もっとよびかけるべきではないか。

久元市長：対象者を限定せずに感染者を調べることに勢力を注ぐことが適切とは思えない。共産党の皆さんがおっしゃるようにやれば、感染がもっと拡大する可能性がある。

久元市長：抗原検査キットの調達まで基礎自治体がやる必要はない。県の方でお願いすることが役割上適切だ。

森本議員：やはり必要なものではないかと。（2面につづく）

答弁ダイジェスト

小原副市長：国の指針に従って対策を講じてきたが、第5波のピーク時の6倍にもなっている。そのため重症化リ

スクの高い高齢者・障害者施設に重点化せざるを得なかった。

森本議員：想定できなかったのではなく、想定が甘かっ

ぜひご視聴ください

朝倉えつ子議員が 総括質疑に登壇します

日時 3月14日(月)13時30分頃から

場所 市議会本会議場

質問時間が遅くなることがありますので、時間に余裕をもってご覧ください。

ご視聴はこちらから



のは基礎自治体で確保しなければならない。これまでも私たち日本共産党神戸市会議員

団はPCR検査の拡大や保健所の体制強化を求めてきた。しかし、久元市長はこの5年間

で750名の職員削減や三宮の再開発に固執し、保健所の計画的増員やPCR検査の拡大を

拒否してきたのが最大の問題だ。

デジタル化や民間委託で市民の不安は解消しない

保健所体制強化こそ最優先に

神戸市は自宅療養患者の相談窓口として市役所に「自宅療養フォローアップセンター」を開設し、約150名の市役所職員を配置しましたが、民間委託することが発覚しました。森本議員は、民間委託では市民の個人情報を守れないと厳しく批判しました。また、「発熱外来に連絡したけ

ど混んでいて検査ができなかった」「病院に朝から150回電話をかけてもつながらない」など、不安や心配の声も多くあがっていることについて、「検査に時間がかかり、陽性と判断されても保健所からの連絡が遅く不安になる。その間家庭内感染が広がる悪循環となっている」と指摘し、よ

り迅速かつ丁寧な対応ができるよう、感染者への支援と保

健所体制の強化を求めました。

答弁ダイジェスト

小原副市長：特に発熱外来でなかなか診ていただけないという声は聞いている。臨機応変に対応するために民間事業者の力を借りて、個人情報には留意しながら適切に分担し対応していきたい。

森本議員：公務員だから個人情報も守ってもらえると思っ

て情報を伝えている。民間委託はそぐわない。久元市長は、保健所はデジタル化などの業務改善を感染が一段落している時期にしっかりやるべきと言ったが、何もやらずに第6波が来た。今すべきなのは保健所体制の強化・充実だ。医師・保健師をもっと増やして（デジタルではなく）人で対応できる体制が必要だ。

事業者支援金や減税など実態に見合った規模の支援を直ちに実施を

2年にわたるコロナ禍で、市民生活や地域経済への打撃は深刻さを増しています。この度の補正予算で「コロナ禍に直面する市内事業者等への支援」として計上されたのは14億5500万円です。商店街・小売市場プレミアム商品券、地場産業応援クーポンなど間接支援が大半です。これまで神戸市がおこなってきた独自

の直接支援事業であるチャレンジ支援金（66億円）や家賃補助（18億円）などと比べても、規模も対象も全く不十分です。中小業者からは、引き続き税金や国民健康保険料の減免の継続を求める声があがっています。森本議員は、事業者の実態と被害に見合った減税や直接支援を求めました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：個人消費は感染症再拡大の影響から持ち直しの動きが一服しているとされ、国・県の取り組みによって現在では一定の支援がなされていると認識している。今後も国・県が実施する支援策を十分に見極めた上で、市内事業者の声も聞きながら支援を検討したい。

森本議員：相談して状況を見極める、これではだめだ。1月に始まった政府の事業復活支援金は昨年

の持続化給付金や家賃支援の給付金と合わせた額の8分の1の支援にとどまっている。融資の返済を猶予するぐらいの施策を神戸市として取るべきだと思うがいかがか。

今西副市長：2022年度より融資の返済が本格化している。中小企業庁が金融機関に対して返済の緩和を求める制度をつくっているが、この申請にかなり多くの費用がかかるので、その事務費用を支援し、中小企業の返済を円滑にできるようにつとめたい。

コロナとたたかうため医療体制と中小業者への支援強化を

2月24日神戸市議会本会議が開かれ、松本のり子議員はコロナ対策に関連する議案について反対討論をおこないました。

神戸市は感染拡大によって体制、人員が追いつかなくなり、学校園等の積極的PCR検査をやめてしまいました。オミクロン株は重症化率が低いとされていますが、亡くなられた方は第5波の4倍近くにもおよんでいます。適切な治療を受けられずに命の危険にさらされている感染者を作るべきではありません。松本議員は、これまで必要な人員を増やさず医療のひっ迫を繰り

返したことを反省せず、さらに行財政改革として750人削減を掲げていることを厳しく批判し、感染者の発見・隔離・治療という感染症対策の基本に立ち返り、保健所の医師、保健師などの増員を求めました。

また、市内の中小業者は、この2年間、借入金や支援金などで営業をつないできましたが、全く足りていないのが実態です。支援金の条件は、

松本議員が反対討論



売り上げの50%減収などの壁があり受けられない事業者も多く、さらに、コロナの収束が見通せない中、今後の資金繰りへの不安に加え、返済がのしかかっています。松本議

員は「今回の補正予算案は消費喚起が中心で、コロナ禍で苦しむ多くの中小業者の実態に全く見合っていない。独自の支援策を講じるべき」と質しました。

新自由主義的政策は転換し、 やさしく力強い神戸経済へ

2月25日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市議団の味口としゆき議員と林まさひと議員が登壇し代表質疑をおこないました。

- 質疑項目**
1. やさしく強い神戸経済への転換について
 2. 王子公園・動物園の再整備について
 3. 神戸市の脱炭素対策について

新型コロナウイルスの急拡大で、市民の暮らしと営業は深刻です。新型コロナから命と暮らしを守ることは、今議会の最優先の課題です。しかし予算案は、都心・三宮の再整備に178億円、大阪湾岸道西伸事業に42億円、国際コンテナ戦略港湾に107億円などコロナ以前の大型開発を強行するものとなっています。大

型開発と呼び込み偏重では「力強い神戸経済を創る」どころか、10年連続の人口減少にみられるように、足腰の弱い神戸となっています。味口議員は、大型開発をすすめ「民間事業者の活動が思う存分に展開できればよい」という新自由主義的政策の転換を求めました。

味口議員が 代表質疑



義的政策を続けている。岸田総理は新自由主義的政策からの転換の必要性を訴えているが、市長には自覚がないのか。

久元市長：民間事業者の発想や知恵を導入しようとするもの。皆さんの賛同をいただいている。

味口議員：行政の施設を民間に明け渡して儲けさせる。一方では限られた予算ということで様々な市民サービスを削減する。これこそが新自由主義だ。経済も人口減少の問題も前にすすんでいないという認識はないのか。

久元市長：人口減少は全国的トレンドだ。三宮に集中投資をしているという指摘は全

く当たらない。

味口議員：人口減少や国の成長が止まっていることは自然現象ではない。岸田総理は新自由主義打開の展望は全く示していないが、市長が自覚も見識もないのでは、持続的な神戸の発展はない。

久元市長：私は岸田総理の考え方に違和感はない。国の動向を注視したい。

味口議員：国の動向を注視するだけではなく、今後の神戸の持続的な経済の発展を見据えて、新自由主義的な施策とは何であるのか、そして自分の施策がどう表れているのかしっかり分析し、転換すべきだ。

答弁ダイジェスト

久元市長：新自由主義を標榜も称揚したこともない。新自由主義というレッテル貼りに強い違和感と恐ろしさを感じる。

味口議員：自覚も反省もないことが逆に恐ろしい。市長が国の官僚時代に指定管理者制度をつくり、市長になってからも三宮再開発など、すべてを民間に委ねるといふ新自由主

王子公園再整備計画

廃止・削減ありきでなく、市民や 利用者の声に寄りそった再整備を!

「王子公園再整備基本方針(素案)」には、市民から1456通(5632件)、市外の方からも892通の意見が寄せられました。「わたしから神戸市への提案」にも1026通の意見が寄せられています。久元市長も認めたように、圧倒的多数は再整備方針に異議を訴えるものでした。これだけの意見が寄せられているのに、

神戸市は「大学誘致の必要性について、丁寧に説明をしたい」などと、考え方を一切変えようとしていません。味口議員は、大学誘致ありきで市民が大切にしてきた遊園地やプール、テニスコート、サブグラウンドを廃止する計画は許されないと質しました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：大学誘致の目的について十分な理解を求め、廃止せざるを得ない施設は代替性や他の機能での補完を検討したい。

味口議員：代替性や機能の補完という考えは、廃止・縮小という考えを全く変えないもの。公共施設は市長のものなのか。

久元市長：公共施設は市民のものだが、設置・管理は神戸市の仕事だ。唐突ではなく選挙公約にも、王子公園の再整備を掲げている。

味口議員：老朽化は設置管理者である神戸市が手立てを

打ってこなかったからだ。選挙公約には廃止について一言もない。市民の声を聞かず、市長の思惑を優先させるのか。まさに市長の民主主義の感覚が問われる。

久元市長：何のために議員をやっているのか。市民意見募集で自動的にものが決まることが民主主義とは思わない。最終的に議会で議論し決定する。これが民主主義だ。

味口議員：何のために市長をしているのか。予算編成の権利は市長にしかない。この王子動物園を当初の大学誘致ありきですすめるのは独善だ。

脱炭素に真剣に臨むなら石炭火力発電所稼働はやめよと神鋼に迫れ!!

神戸製鋼所（神鋼）は、灘区で新設石炭火力発電所3号機の営業運転を開始しました。3号機によって、年間346万トンのCO₂の排出増加が見込まれます。COP26では、気温上昇を1.5℃に抑える努力目標追求の決意を確認し、2030年までを「勝負の10年」として気候変動対策を呼びかけました。そのために、

石炭火力をフェーズダウン（漸減）することが決議されました。今回の営業運転は、脱炭素社会の実現に大きく逆行します。味口議員は、市長が「地球温暖化対策には強い決意をもって取り組む」としたのなら、石炭火力発電所稼働はやめよと神鋼に求めるべきと、市長の決意を求めました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：3号機は最新鋭の発電技術を導入した石炭火力発電だ。神鋼にはさらに厳しい汚染物質の協定値を設定し、アンモニア混焼率拡大や専焼が実現されるよう働きかけ、2050年のカーボンニュートラルの実現を目指したい。

味口議員：アンモニア混焼は、日本が化石賞を受賞した理由だ。再生エネルギー事業や、技術を尽くしてもっと未来が見える事業へ転換するべ

きと神鋼に求めるべきだ。

今西副市長：神鋼が再生可能エネルギーに取り組むことは望ましいが、神戸には火力発電所があるから、今はアンモニア混焼を実現しCO₂削減をすることが重要な取り組みだ。

味口議員：灘区にお住まいの方にとって公害問題に苦しめられてきた記憶の残影は切り捨てることはできない。強い決意と言いながら、神鋼に何もものを言わないという姿勢は改めるべきだ。

これまで 神戸経済支えてきた中小業者に手厚い直接支援を

質疑項目

1. コロナ禍で苦しむ中小業者への支援について
2. 保健所体制の本格的拡充について

神戸市は、2年以上にわたるコロナ禍で苦しむ中小業者への支援について、「国には充実した支援策がある」という答弁に終始しています。しかし、国・県による既存支援策を利用しては、多くの中小業者が経営困難に直面しているのが実態です。林議員は

「コロナで売上げが減った。家族の介護費用などで、手元の10万円で家族4人生活しなければならない」などの事業者の苦悩の声を紹介。中小業者等が、これ以上廃業や倒産に追い込まれないように、市独自のさらなる支援策を講じるべきと迫りました。

林議員が代表質疑



態を把握もせず神戸市が支援をやめてしまうのはおかしい。

今西副市長：これまでも市内事業者の実態把握もすすめてきた。引き続き国・県の支援制度、相談窓口の案内もしながら必要に応じて市の制度の拡充も検討していく。

林議員：申請するのに非常

にハードルが高いことを市長が認めるなら、もっと気軽に借りられて事業が継続できる支援制度を神戸市がつくるべきだ。同時に国民健康保険料や介護保険料、税金などの負担も非常に大きくなっている。中小業者に対する減税・減額や減免・猶予など手厚い施策を講じるべきだ。

答弁ダイジェスト

久元市長：直接的支援はこれまで国や県に先行して実施してきた。申請のハードルが高いが、今は国の支援が充実しているので、それが確実に

行き渡るよう申請のサポートをすることが重要だ。

林議員：予算案は規模が小さく間接支援が中心で、これでは今苦境の中にある中小業者は救われない。事業者の実

保健所体制が不十分であったことを反省し、感染広がる今こそ抜本的強化を

日本共産党神戸市会議員団は、コロナ禍における保健所体制の強化について再三必要性を主張してきました。ところが久元市長は、保健所業務のデジタル化などによって効率化をはかるとし、抜本的な

体制強化や保健師の増員に背を向けてきました。林議員は、市民の命と健康を守るため、保健師の増員などによる抜本的な保健所体制の強化が必要だと質しました。

活用しながら市民の命と健康を守っていきたい。

林議員：フォローアップセンターのスタッフが民間事業者に委託されているが、本来感染症の仕事は保健所がおこなうものではないのか。

小原副市長：ご指摘の通りだが、代替がきくものは民間の力を借りながら対応していく。

林議員：民間事業者に委託せざるを得ない保健所体制になったのは神戸市の責任だ。市長は750人の職員削減計画を変えないとしているが、一

方で保健所業務は、職員では対応できず民間委託をしている。矛盾した施策だ。

久元市長：人口減少社会の中で限られた人員で行政課題に対応しなければならない。やめる・見直す・変えるという不断の努力が必要だ。保健所の体制はしっかり強化してきた。

林議員：これまでの対策が不十分だったために職員だけで対応できなくなった脆弱な保健所体制を反省し、今こそ保健師の増員など保健所体制の抜本的強化が必要だ。

答弁ダイジェスト

小原副市長：保健師増といった抜本的な体制強化やデジ

タル化による効率化をしたうえで、感染の波に応じて人材派遣・業務委託・職員応援を

2月28日

市民の個人情報守るため、
区役所の外部委託やめよ
行財政局審査で松本議員



質問する松本のり子議員

神戸市は兵庫区役所と北区の北神事務所の市民課だけでなく、さらに今年の4月からは、社会保障の根幹や権利の証明に関する保険年金医療課の重要な業務ま

神戸市では2月に入ってコロナ陽性者は3人に1人が救急車を呼んでも搬送されないという事態になり、また、高齢者施設では施設の医師が救急搬送を依頼しても、施設に留め置かれる事例もでてきます。搬送困難に直面する現場からも受け入れ病院を増やすよう声をあげることが必要で、現状はこれまでのコロナ禍での教訓がいかされていません。

自然災害やコロナ感染拡大など、いざというときに頼りになる消防局に対する要望は大きくなっています。この間、消防署の建て替えや、救急車、消防車の施

3月1日

脱炭素社会への強い決意と
明確な目標示せ
企画調整局審査で味口議員



質問する味口としゆき議員

予算特別委員会審査から

1. 区役所の外部委託について
2. 会計年度職員の在り方について
3. 行財政改革2025について
4. 公共施設等総合管理計画について

質疑項目

でも外部委託するとしています。松本議員は「市から受託事業者へ直接業務の指揮・命令をおこなうことは偽装請負となる。また、戸籍や住民基本台帳、国保や介護保険後期高齢者の保険料の減免、届け出の受理・不受理などは、専門的知識や経験が必要な部署であるため、外部委託はやめるべき」と厳しく質しました。

答弁ダイジェスト

松本議員：管理者と管理者ではない民間の職員との給料体系はどうなっているのか。

久安副局長：受託事業者の給与額や処遇は、私どもは指示できない。

松本議員：給料に差がなければ「名ばかり管理職」だ。きちんと把握をする必要がある。また、個人情報の管理を任せるとは、漏洩等の問題が生じる危険が高いのではないのか。

久安副局長：個人情報などの遵守を義務づけている。違反があった場合、契約解除や損害賠償請求をおこなう。

松本議員：公務員の場合は懲戒処分や刑事罰など本当に厳しい。それに比べ、研修する程度で軽い罰則だと市民は安心できない。外部委託は検討し直すべきだ。

2月28日

命と財産を守るため
余裕ある人員配置を早急に
消防局審査で今井議員



質問する今井まさこ議員

1. 「神戸市消防力整備指針」の早急な充足を
2. コロナ禍での救急搬送について
3. 航空機動隊庁舎、不等沈下対策経費について

質疑項目

設面では一定整備されてきましたが、神戸市の立てた目標である、消防力の整備指針によると、消防・救急隊員の充足率は89%、全体で134人足りていません。今井議員は、「現場にかけつける隊員の疲労はピークになりつつある。余裕ある人的配置が必要だ」と2年間の厳しいコロナ対応をされている消防・救急隊員の状況を改善させるためにもさらなる増員を強く求めました。

答弁ダイジェスト

鍵本局長：救急隊は負担が大きい。消

防署をあげて、過労にならないよう、管理をしていきたい。

今井議員：できるだけはやく、足りない人員を充足すべきだ。

1. 脱炭素社会をめざしたエネルギー政策の推進について
2. 王子公園・王子動物園問題について

質疑項目

久元市長は予算に関する提案説明で「地球温暖化対策には強い決意をもって取り組んでいなければなりません」と表明しました。COP26でも、2030年までの取り組みが非常に大事だとして「勝負の10年」と日本政府も位置づけて

います。しかし、神戸市のエネルギー政策は水素任せで、再生可能エネルギーはブルーカーボンの推進だけです。味口議員は「2030年までに脱炭素社会へ転換する決意が感じられない」と指摘し、持続可能な神戸経済の発展を考え、省エネや再生可能エネルギーで雇用創出するなど地域活性化につながる戦略を求めました。

(2面につづく)

答弁ダイジェスト

味口議員：水素スマートシティ構想のパンフレットには、まだCO₂削減目標が26%であるCOP21のことを書いている。今は50%、60%削減しなければ2050

神戸市内の保育所ではこれまでコロナ感染者が確認されると、すべての子どもたちと職員を対象に積極的検査をして、できる限り開所を続けてきましたが、1月下旬から積極的検査を中止しました。マスク着用が難しい子どもたち、密が避けられない環境の保育所等では積極的検査が常に行えるようにすべきです。朝倉議員は、「子どもたちの命と育ち、保護者の就労を保障している保育の継続を重点化するなら、市として公的責任をきちんと果たし、それに見合った感染症対策、検査体制の強化をするべき」と強く求めました。

答弁ダイジェスト

朝倉議員：子どもたちの感染が拡大していた第4波の終わり頃から体制を強化

3月2日

市民の命を守る 感染症対策に転換を 健康局審査で森本議員



質問する森本真議員

現在、コロナウイルス感染により亡くなる方が増えており、第5波を越え、第4波に迫る勢いです。その中でも老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホームなどでの感染での死亡者が増えています。老健施設では医師が入院適用だといった患者が入院できない事例がでて

年のカーボンニュートラル社会は実現できない。これでは脱炭素への決意が全く見えない。

辻局長：しっかり取り組んでいきたい。

味口議員：化石燃料が原料である脱炭素技術とは言えない水素頼みでは、2030

質疑項目

1. コロナ対応について
2. 待機児童解消について
3. 地域子育て支援センター廃止について
4. 保育士処遇改善について

することが必要だった。そこをやらないでいたことが問題だ。子どもたちの命を守るんだと、保育の継続を重点化するのなら、しっかりと検査も求めていただきたい。

山村局長：重点化は全市的な方針だ。こども家庭局としては目の前にある課題に対して今出来ることをしっかりやっていく。

朝倉議員：今まで人員を減らしてきたから、検査体制も医療体制もひっ迫している。ある園ではクラスターが連続する中で、薬局で購入したキットで職員が毎朝検査をしてから業務に入るといふ涙ぐましい努力がされている。こういう現場の状況をしっかりつかんでいるのか。

山村局長：チームを組んで休日含む24

1. 積極的PCR検査の拡大について
2. 命を守るための保健所の施策について
3. 高齢者施設でのクラスター対策について
4. 地域医療計画の見直しについて
5. 北神三田地域の急性期医療の確保について

質疑項目

おり、命をまもるための方策を神戸市でつくり、入院出来ないことがないように対応をするべきともめても、健康局長は「できることなら、やりたいが、現状ではできない」と返答。森本議員は「もともとベッド数が圧倒的に足りていない。それなのに国の地域医療構想でまだ急性期病床を減らそうとしている。コロナ病床は高度急性期と急性期が受け入れている。今後を見越して急性期病床を確保すべきだ」と質しました。

年にはとても間に合わない。本格的にどのように再生可能エネルギーを普及するのか、省エネルギーにすすむのかということ全面的に示すべきだ。

3月1日

感染症対策、 検査体制の強化を！ こども家庭局審査で朝倉議員



質問する朝倉えつ子議員

時間体制で陽性者が発生した園での対応、それ以外での園での相談対応をしているので現場の状況はつかんでいる。

朝倉議員：現場の人の話では、もっと情報共有したいのに「だめだ」と言われていると聞いた。情報をつかんでいると言うなら具体的に対応してもっと支援を強めていただきたい。

答弁ダイジェスト

花田局長：(急性期病床を減らす地域医療構想に)一自治体として意見をいうのは難しい。新興感染症は中央市民だけでは厳しいのはわかっているので、西市民も第2種感染症の指定をとって対応する。

森本議員：三つの市民病院だけでは厳しい。これ以上、急性期を減らすことはやめるべきだ。

花田局長：国県のしめす方針で方向で考えていかざるをえない。今回の経験を踏まえて考えるのは国レベル。意見を申し上げるのは厳しい。

森本議員：消防局から急性期をへらしているのに、救急が受け入れられない状況も聞いている。病床削減をやめ、命をまもる立場をとるべきだ。

ぜひご視聴ください

森本真議員が一般質問

日時 3月29日(火)13時30分頃から 場所 市議会本会議場

時間が前後する可能性がありますので、余裕をもってご覧ください

ご視聴はこちらから



予算特別委員会審査から②

ハーバーランドからHAT神戸に至るウォーターフロント地域は、神戸港の中心として神戸経済の発展をけん引してきた重要な地域です。現在神戸市は、都心三宮地域と一体にウォーターフロント再整備計画を進めていますが、特定の民間事業者や特定の利用者などが想定された事業が多く、市民の要求に基づいたものとはいえません。山本議員は「今検討されているマリーナなどは、限られた人々が対象で空間を広く市民が共有できない。市民とともに神戸の歴史を積み上げてきたのがウォーターフロント地域だ。観光客や企業呼び込み型の消費に期待するのではなく、広く市民の意見を聞き、市民参加を保障した再開発のあり方や計画

質疑項目

1. カーボンニュートラルポートについて
2. ウォーターフロント再整備について
3. 須磨海岸の活用のあり方について

へと見直すべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

山本議員：事業者は採算ベースで判断するので事業者ベースの再開発になっていく。ウォーターフロント地域は市民の財産だ。再開発であっても市民に開放され、還元されなければならない。対価を払ったものしか享受できないのは問題だ。

加島担当局長：街の魅力の向上、神戸経済の成長につなげるのを目的に、民間活力を最大限活用して進めている。市民も外来者も海、潮を感じられるようなエリアを目指している。ポートミュージアムができて、人の流れが約5倍増加しているなど、効果がはっきりみとれる。

3月2日
ウォーターフロント地域は
市民の財産だ！
港湾局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

山本議員：神戸港の魅力観光に生かすのは大事だが、神戸が培ってきた独自性が生かされていない。ただ来街者を増やすためだけの今の再開発計画には納得いかない。

3月3日

市民と地球の未来を守る、
神戸市として責任ある温暖化対策を
環境局審査で西議員



質問する西ただす議員

地球温暖化対策は喫緊の課題です。2050年までにCO₂実質排出量をゼロにするため世界でも様々な取り組みがなされていますが、灘区では神戸製鋼所が火力発電3号機を運転し、年度中に4号機を動かそうとしています。1～4号機で

1. 温暖化対策について
2. アスベスト飛散防止対策について

質疑項目

市民が年間排出するCO₂を越えるCO₂が排出されることとなります。議員団は市民から「世界の流れに背を向け、公害を広げる石炭火力はやめよ」と声が上がっているこの神鋼火力発電所にたいし強く廃止を求めています。今回の予算特別委員会でも神戸市は「最新の高炉だからCO₂排出量は少ない。神鋼火力発電所が輩出している部分は国全体のCO₂として分かち合うもので、神戸市の算定量にははまらない」と市民の生活や健康を鑑みない無責任な答弁に終始しました。今回の予算では地球温暖化防止実行計画を改定するとしていますが、市全体の大きな数字目標だけで具体的な計画は出し

ませんでした。西議員は「川崎市では部門毎に目標をたてており明確だ。神戸市も具体的な形にすべき。神戸市の実行計画骨子では『産業・業務部門は市内温室効果ガス排出量半分近くをしめるのが最重要』とある。だとすれば、今の段階で明確な目標を示すべきだ」と質しました。

答弁ダイジェスト

中村環境保全部長：考えてはいるが、国自身も目安でしか提示されていない状況だ。どの分野でどれだけ削減をやっていくかというのは検討していきたい。

西議員：国はそうでも川崎市はやっている。神戸も、この街をどうするかという観点でやるのはあたり前。はっきり形を示し意識をもって取り組むべきだ。

ぜひご視聴ください

森本真議員が一般質問

日時 3月29日(火)13時30分頃から 場所 市議会本会議場

時間が前後する可能性がありますので、余裕をもってご覧ください

ご視聴はこちらから



神戸市は、7000戸以上の市営住宅を削減する計画を進めています。コロナ禍で貧困と格差が広がり、市営住宅への入居希望者が増えています。しかし、市が提供しているコロナ対応の住宅は、東部（東灘区・灘区・中央区）以外の区から37戸しかなく、現在入居しているのはわずか22戸です。林議員は「戸数が少なすぎる。今こそ市営住宅を増やして、入居しやすくすることが求められる」と指摘し、削減計画は中止して住宅困窮者の方々に提供できる住居の確保を早急におこなうよう求めました。

3月4日

コロナに便乗した 市民サービスの切り捨てやめよ 交通局審査で松本議員



質問する松本のり子議員

神戸市は、コロナウイルス感染拡大に伴い、市バスの利用者が減少したことで、来年度の市バスの減便やダイヤ改正をおこないました。減少した運行本数は286本と全体の5%にもなりません。減便した路線の中には、舞子高校、伊川谷高校などの通学の生徒が利用している路線もあります。また、バスでしか駅や買物

保護者や市民の“子どもひとりひとりを大事にしたい”という願いと、少人数学級を求めるねばり強い取り組みの成果により、国は40年ぶりに小学校の学級規模を40人学級から35人学級へ段階的に進めるよう法律を改正しました。5年間かけて進めることになっていますが、朝倉議員は「コロナ禍の今、子どもたちは我慢させられ、しんどい思いを抱えている。教員を増やすことで多忙化も解消できる。少人数学級は急務だ」と、前倒しで進めるよう求めました。

答弁ダイジェスト

朝倉議員：文科省資料では、日本の教職員の1週間あたりの労働時間はOECD加盟国で比べると最長だ。市の外部監査を見ると神戸市の教員の時間外勤務は、特に中学校は全国平均を上回り、精神疾

- 質疑項目
1. 市営住宅問題について
 2. 住まいに関する総合支援について

答弁ダイジェスト

根岸局長：我々の方から入居をお断りしたことはない。市民の感情を考慮して人気の高い住宅は対象から外している。

林議員：便利などにあるとは思えない。解雇されて職を失い、国民健康保険に移された方は2020年度で4856人もいる。削減計画で潰すために空けている住宅があるのだから、募集戸数を増やすべきだ。

根岸局長：お困りの方には支援をしていきたい。(削減計画の対象住宅に)入っていただいてもすぐ移っていただいたり工事をしたりということになるので、募集を停止している。

林議員：市民の声に寄りそって削減計

- 質疑項目
1. バスの減便について
 2. 駅構内・車内・バスの痴漢対策の取り組みについて
 3. 交通振興の運転士の雇用確保について

に行けないような地域もあり、市民の生活に影響が出ています。松本議員は、コロナに便乗した減便はすべきではないと質しました。

答弁ダイジェスト

大岩根自動車部長：減便はコロナの影響による減少に対応するもので、コロナ前に利用者が戻った路線は、再度増便など見直しを検討する。

松本議員：前年度よりも一般会計からの繰入れが5億円多く入っているのに5%も減便するというのはおかしいのでは

- 質疑項目
1. 学校園でのコロナ対策について
 2. 少人数学級について
 3. 八多小・中学校の義務教育学校への移行について
 4. 港島学園の施設改修について

患で休職する教員の数も増えている。こういう状況で子どもたちに向き合うのは非常に困難。一番の被害者は子どもたちだ。思い切って教員を増やし、少人数学級に踏み出すべき。子どもたちの学びを豊かに保障すること、教員の多忙化を解消すること、少人数学級はまさに一石二鳥だ。

長谷川事務局長：たしかに学校現場では教員の多忙化認識している。令和にふさわしい業務のあり方について組織的に検討している。勤務時間を短くするのは人を増やせばいいのではなく、業務のあり方をゼロベースで見つめなおして、知恵と工夫で働きやすい職場づくりに取り組

3月3日

コロナ禍で苦しむ市民のために 市営住宅の確保早急に！ 建築住宅局審査で林議員



質問する林まさひと議員

画は中止し、困っている方のために住居を確保すべきだ。

ないか。

習田副局長：一般会計からも支援してもらっているが、あくまでこれは利用者の減少分をお願いしているものだ。

松本議員：バス会計には事業所の建て替えや車両の更新のための負債が含まれている。直接市民に関係のない負債のために市民の足を削ることは納得できない。また、乗車収入に対しての敬老パスの負担金が多いのは、それだけ高齢者や交通弱者が乗っているということだ。市民の暮らしを守っていくために、減便をやめて早く元に戻すべきだ。

3月4日

コロナ禍の今、 少人数学級は急務！ 教育委員会審査で朝倉議員



質問する朝倉えつ子議員

んでいく。

朝倉議員：ある中学校では超過勤務を知らせながらやっているが、改善できていない。業務の改善でなく人を増やす以外この状況は変えられない。子どもたちの学びにしっかりとお金を使うのは当然のことだ。あらゆる努力を尽くして前倒しで少人数学級を進めるべき。

王子公園再整備計画 市民の意見に寄りそわず、 秘密裏に大学誘致進める計画は白紙撤回を!!

3月14日に神戸市予算特別委員会がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団を代表して朝倉えつ子議員が総括質疑をおこないました。

- 質疑項目
1. 王子公園再整備について
 2. 行財政改革に伴う職員削減について
 3. 学校施設の統廃合について

神戸市が昨年公表した王子公園の再整備計画について、久元市長は本会議で「去年1月に記者会見を開き、詳しくこの再整備について説明をしている。選挙の公約にも、一番最初に掲げている」などと述べ「これを実現させるのは私の責務」と、あくまでも大学

誘致の方針は変えない姿勢を示しました。しかしパブリックコメントでは5632件もの意見が寄せられ、その大半が不安や疑問の声でした。朝倉議員は「これだけ多くの市民が異論の声をあげているのだから大学誘致は白紙撤回するべきだ」と厳しく追及しました。

朝倉議員が 総括質疑



まっていないのに、すでに大学と話し合いを進めているのか。これが本当なら出来レースだ。

今西副市長：個人的に関心があるとの報道があったが、基本的には公募で決定する。

朝倉議員：動物に全く関心がないからと、市長の独断で動物園の縮小や大学誘致を決めるのは、市民を欺いているのと同じだ。

久元市長：動物園に立ち寄った時に、目的が再整備であったということで、動物に関心がないということは事実には反する。

朝倉議員：多くの皆さんが「施設をなくさないで」「なぜ大学誘致なのか」と声をあげているのに、強行すれば市民理解は得られない。大学誘致は白紙撤回するべきだ。

答弁ダイジェスト

朝倉議員：関西学院大学で「王子キャンパス構想特別検

討委員会」が正式にできたと聞いた。市民には丁寧に説明すると言いながら、公募も始

SDGs ジェンダー平等 掲げるなら

男女の格差と女性の貧困うみだす 官製ワーキングプアの是正を

神戸市は、2020年4月から会計年度任用職員の雇用を始め、現在5880人となっています。市は「多様な働き方、ニーズに合わせて働いていただく」「期末手当など、一定の改善をしている」としていますが、2197人以上の方は、週30時間以上、フルタイムと同じように働いています。ま

た、市の募集要項を見ると、週5日で30時間勤務の事務職の年収は約180万円とあり、正規職員の3分の1ほどです。朝倉議員は「コロナ禍で市民を支援する職員が、こんな低賃金ではだめだ。公務労働の現場から非正規のワーキングプアをうみだすのはやめるべき」と質しました。

を少し改善しても見つからないのが実態だ。(会計年度職員)の女性職員の比率は、教育委員会64.8%、こども家庭局では98.2%が女性となっている。安上がりの不安定な会計年度職員の多くが女性に頼っているではないか。

今西副市長：それぞれの希望に応じた働き方を選択していただく過程で、正規職員に結び付けていくことも必要だ。できるだけ正規を希望される方が就職できる対応をおこなっていききたい。

朝倉議員：「到底暮らしていけない」「先が見通せない」という声が大半だ。市役所が大量のワーキングプアを作り出し、そのしわ寄せを女性に押しつけている。これで

どうやって、持続可能な神戸をつくるのか。

小原副市長：今後神戸の人口流出を抑え、人々を引き付けていく街にしていくためにも女性が活躍できる施策を取り入れながら魅力的な行政サービスに努めたい。

朝倉議員：人口減少社会に歯止めをかけていくためにも、やはり安定・安心の雇用が必要だ。労働法制の改悪により、非正規雇用の人が増え、格差と貧困が広がった。その結果、神戸でも成長が止まっているのが実態だ。この是正なしに、持続的な神戸の発展などありえない。正規職員があたりまえの職場にすべきだ。

答弁ダイジェスト

今西副市長：適切に給与改善等もおこなっている。

朝倉議員：今保育の現場では、フルタイムの職員が見つからず欠員も出ている。処遇

新しい学校ができるのにプールも給食室もないの?!

「経費がかかるから」という理由で大事な学校施設なくすな

神戸市は、港島学園の建て替えに伴い、中学校のプールと小学校の給食室を廃止しようとしています。長谷川教育委員会事務局長は「多額の経費がかかる」と理由を述べましたが、お金がかかるからという理由だけで廃止を決めてしまうのは、本末転倒です。

老朽化による校舎の建て替えを計画する垂水小学校と春日野小学校についても給食室を廃止する計画です。朝倉議員は、新しくする学校に対して教育に必要なプールや給食室を無くすべきではないと質しました。

じている状況で、適切な給食の提供方法の検討をおこなっている。

朝倉議員：昨年12月の委員会、垂水小学校の建替えについての与党議員の質問で、初めて小学校給食提供方式の変更を検討していると言われた。しかし、その後の委員会でも何ら報告などされないうまま、本会議場で「具体的には港島学園、垂水小学校、春日野小学校で給食提供方法の変更を検討している」と答弁した。あまりにも唐突だ。

(垂水小学校は)保護者宛にプリントが1枚配布されただけと聞いている。まったく説明にもなっていない。

長田教育長：特に問い合わせ

せはなかったもので、保護者の皆さんには概ね理解いただいていると思っている。

朝倉議員：長谷川局長は、「お金がないからできない」と言った。子どもたちの環境を良くしていくための予算だから市長の判断ですべきだ。

久元市長：教育委員会から必要な予算を要求していただき計上しているつもりだ。

朝倉議員：コスト削減を優先するあまり、市民や保護者の合意、説明もないまま、子どもたちの教育に必要な施設まで廃止させ、さらなる民間任せを進めようとするやり方は認められない。

答弁ダイジェスト

長田教育長：プールはポートアイランドスポーツセンタ

ーの利用を予定している。給食室は市内に2か所の共同調理場の能力に一定の余力が生

コロナ禍のもとで市民の命と暮らしを守るための予算を

神戸市予算特別委員会が3月16日にひらかれました。西ただす議員が登壇し、2022年度神戸市各会計予算案並びに予算関連議案について反対の理由を述べました。

西議員が意見表明



- ① コロナ禍のもとで市民の命と暮らしを守るものになっていないから
- ② 社会保障を拡充し、子育て・教育の負担を軽減するものになっていないから
- ③ 公共の施設を統廃合し、公務労働を低賃金と非正規・民間委託に置き換え、公的責任を後退させているから
- ④ 大型開発・呼び込み施策に偏重し、いま神戸で住み働いている市民や事業者の願いに応えていないから
- ⑤ 気候危機打開やジェンダー平等の実現に積極的に取り組む姿勢が無いから

※意見表明の全文は「日本共産党神戸市会議員団」のホームページをご覧ください。



久元市長は、市場原理に委ねて、公的な役割を大きく後退させる「新自由主義的な政策」を推進しながら、そのことへの自覚も反省もありません。基礎自治体の役割は「住民福祉の増進」です。国の言いなりではなく、国の悪政の防波堤の役割を果たすことが求められています。

日本共産党神戸市会議員団は、予算の編成替えを求める動議を提案しました。市長提

案の予算から三宮再整備や、大阪湾岸道路西伸事業などの大型開発等、不要不急の施策を削減するとともに、財政調整基金を活用することで財源対策をおこなっています。それによりコロナの影響で苦闘する中小企業、医療機関への支援や市民の暮らし応援、35人学級の小中学校での実施や、子どもの医療費の無料化など市民の願いに応える提案となっています。

神戸っ子から王子動物園をうばわないで!

3万90筆もの計画撤回を求める 請願署名を提出しました

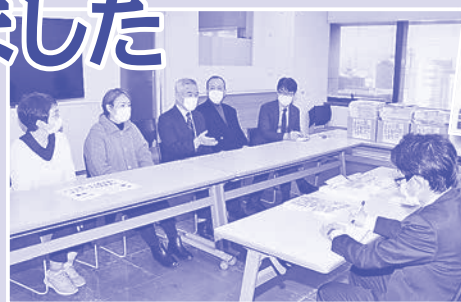
昨年12月神戸市が突如公表した「王子公園再整備基本計画(素案)」に対し、市内だけでなく市外からも「大学はいらない」「遊園地やプール、テニスコートをなくさないでほしい」といった多くの声が上がりました。そこで立ち上がった「みんなの王子公園&動物園の会」が署名活動をスタートし、3月22日に全国から集まった3万90筆もの計画の撤回を求める署名を神戸市に提出しました。

対応した山田大輔企画調整局副局長は、「3万の署名、市民意見募集でも厳しい批

判の声は真摯に受け止めている」としながら「王子公園のもつポテンシャルは生かして、より良い再整備の案を出したい」と、市長が強行しようとしている大学誘致は否定しませんでした。

日本共産党神戸市会議員団は先日の代表質疑や総括質疑でも、市民の声に背を向け、大学誘致ありきの方針を変えようとする神戸市の姿勢を改めるよう追及しました。

引き続き署名活動を続けます。皆さんの声で計画を撤回させましょう!!



署名を提出する「みんなの王子公園&動物園の会」の皆さんと日本共産党神戸市会議員団の味口としゆき議員



みなさまへ

少しずつ暖かくなり春らしさを感じられる頃となりましたが、お元気でお過ごしでしょうか。

日頃より、日本共産党神戸市会議員団の活動へのご協力ありがとうございます。これまでに私どもの市民アンケートにご協力いただいたみなさまに、**神戸市会報告**を、お届けいたしますので、是非ご一読ください。

長引くコロナ禍のもと、市民の生活や中小業者の営業は厳しさを一層増しています。ところが久元市長が発表した2022年度予算案は、保健所の体制を強化しないまま積極的な検査を縮小し、三宮再開発や王子公園の再整備など、市民不在・呼び込み型の大型開発を推し進めようとしています。

岸田首相も「弊害の是正」を掲げざるをえなくなった「新自由主義」の害悪。歴代自民政権がすすめた、非正規低賃金労働者の増加や、社会保障の削減、消費税増税路線を転換し、市民・国民の暮らしと家計を直接あたたため応援する施策が、国政にも神戸市政にも求められています。

夏には、参議院選挙もおこなわれます。

日本共産党神戸市会議員団は、コロナから、命と暮らしを守り、雇用と営業をしっかり補償するとともに、少人数学級や中学校給食の改善実現など教育予算の増額し、あたたかい強い神戸経済に転換めざし、全力でがんばります。

2022年 春

日本共産党神戸市会議員団

森本 真 松本 のり子 西 ただす
味口としゆき 大かわら鈴子 朝倉 えつ子
山本じゅんじ 今井 まさこ 林 まさひと

同封いたしました「王子公園・動物園署名」に、ご協力いただけましたら、お住まいを担当する市会議員、共産党の事務所にお届けいただくか、灘区の「みんなの王子公園&動物園の会」に、ご郵送いただけますようお願いいたします。